

## ▶ 全国都市緑化よこはまフェアにおける緑化連携

提案者 ▶ 全国都市緑化よこはまフェア実行委員会

研究者 ▶ 国際総合科学部 理学系 教授 坂智広

### 地域課題

全国都市緑化よこはまフェアの花や緑を題材とした地域産業の発展に資する「緑化・環境・食育・文化・考え方」を市民・企業などの来場者にわかりやすく伝えるため、都市空間の緑化手法を担う次世代地域人材の開発とその教育・啓蒙拠点を整備する。

### 課題解決の方法

植物の面白さと不思議さや、人の生活に不可欠な食と環境との調和が持続的都市発展をもたらす重要性、地域文化の伝承と食文化の活かした社会の連携モデル等について、木原生物学研究所および横浜市こども植物園を中心に、全国都市緑化よこはまフェアに向けた勉強会やワークショップ、市民参加型イベントを小中学生や高大連携の教育現場と連携しながら企画開催し、「植物科学から食と農の産業化、そして持続的都市生活の向上」に向けた次世代地域人材の開発とその教育啓蒙拠点を整備する。

### 実施内容

全国都市緑化よこはまフェアにおける緑化連携に向け、下記の活動を通じて地域人材開発と拠点整備を行った。

1. 事業活動推進のための連絡協議会等の設置会合を行った。〔4月末～5月〕
2. 地域実践科目「資源生物利用学」の講義の中で「植と食」のつながりと「植物科学から食と農の産業化、そして持続的都市生活の向上」に向けた次世代地域人材を開発した。〔6月中旬〕
3. 平成27年度COC事業インキュベーション型プロジェクト「農を中心としたまちづくりとブランディング」の成果を受けた市民参加型研究会を開催し、コンセプトマップを作成した。〔8月末〕
4. サイエンスフロンティア高校、桐蔭学園中学女部と連携し、横浜とコムギと人類の関係を通して持続的開発目標(SDGs)達成に向けた勉強会・ワークショップを開催した。その中で全国都市緑化よこはまフェアにて展示するコムギ品種の栽培を進めた。〔10月～3月〕
5. 市民・企業の参加者による主体的な活動の場や相互交流の場として、全国都市緑化よこはまフェア会場のみならず、みらい地区運河パークに「麦畑花壇」を創出した。〔10月～3月〕
6. 「植と食」をつなぐ実践アイテムとして、木原生物学研究所で養成した横浜産オオムギを使用したビール「KORNMUTTER」作りに取り組んだ。〔4月～3月〕

### 成果・効果

全国都市緑化よこはまフェアの会場となる運河パークに麦畑花壇を創出した。また、木原生物学研究所の研究成果を市民や学内にわかりやすく伝え、「知り、繋がり、伝える」拠点であることを示すアイテムとして、研究所で養成した横浜産オオムギを使用したビール「KORNMUTTER」の作出に漕ぎ着けた。さらに継続課題として、フェアの目的の一つである「花や緑を題材とした地域産業の発展」につなげていく取組を立ち上げた。

### 今後の課題と展開

全国都市緑化横浜フェアとの連携により、市民や企業が輝く舞台づくりを形成する。具体的には、市民や企業など多彩な参加者による主体的な活動や交流の場を設け、花と緑をきっかけとした相互交流の場とする。また、花と緑を題材とした地域産業の発展に資する提案を行い、横浜を元気にする。

木原生物学研究所および横浜市こども植物園を中心に、植物の面白さと不思議さ、人の生活に不可欠な食と環境との調和が持続的都市発展をもたらす重要性、地域文化の伝承と食文化の活かした社会の連携モデル等について小中学生・高大連携の教育現場と連携し、勉強会やワークショップ、市民参加型イベントを第33回全国都市緑化よこはまフェアと連携して企画開催する。その中で「植物科学から食と農の産業化、そして持続的都市生活の向上」に向けた次世代地域人材の開発とその教育啓蒙拠点を整備する。

1. 麦を使用した栽培展示・演出(平成28年度事業から継続)
2. 麦を活用したイベントやワークショップ、麦にまつわる文化・歴史などの展示を通して来場者への啓蒙
3. シンポジウム等を通じた市民・企業等との交流スキームの構築
4. アクティブ・プランニング、アクティブ・ラーニングを通じた都市空間を活用した新たな緑化手法の提案